

恋しくば

尋ね来て見よ

いずみなる

しのだの森の

恨みくずの葉

私が十五、六の時、平沢小学校講堂にて演芸会があった。そのとき、余興に芸能人が、畳半分位の紙に毛筆にて墨痕鮮やかに、短歌の最後の字からすらすらと書いていく。字を書く筆順の最後から反対に書いていく。

見事であった。私は近くにおいて照明など世話を手伝って居たので、書いた大きな紙を買って宝物のように生家に置いてあったが、何時のまにか無くなってしまった

前節の短歌はその時のものである。六十年も過ぎても忘れられない短歌である